

令和2年度 東海岸サンライズベルト構想検討委員会（第1回）

－議事概要－

日 時：令和2(2020)年12月18日(金) 15:00～17:00

場 所：沖縄県市町村自治会館 2階 自治会館ホール

出席者：池田孝之委員長、島袋伊津子副委員長、山城博美委員、永井義人委員、前原正人委員、上間秀二氏（島袋俊夫委員代理）、瑞慶覧長敏委員、石渡一義氏（新垣邦男委員代理）、比嘉忠典氏（浜田京介委員代理）、崎原盛秀委員、照屋勉委員、宮城力委員、嘉数登委員、渡久地一浩委員、上原国定委員
(欠席：桑江朝千夫委員)

1 開会の挨拶

富川副知事

平素から、沖縄振興に御理解と御尽力を賜り、感謝申し上げます。

東海岸地域においては、国際物流拠点の形成や今後のマリンタウン MICE エリアの形成など経済発展の大きな可能性を有しており、沖縄の更なる発展を強固のものとするため、東海岸地域に、もう一つの南北に伸びる経済の背骨を形成し、強固な経済基盤を構築することが重要と考えている。

委員の皆様おかれましては、東海岸サンライズベルト構想について、市町村行政や専門各分野から活発なご議論を賜りますようお願い申し上げます。

2 東海岸サンライズベルト構想検討委員会設置要綱の成立について

事前に各委員から東海岸サンライズベルト構想検討委員会設置要綱について異議は無いと回答を頂いていることから、要綱の成立を承認した。

池田孝之委員を委員長、島袋伊津子委員を副委員長として選任した。

3 東海岸サンライズベルト構想策定に向けた事務局説明

事務局より東海岸サンライズベルト構想の策定に向けた説明を行った。

4 各委員の意見等について

①市町村長

(うるま市) 上間氏 (島袋委員代理)

勝連城跡と中城城跡、斎場御獄といった世界遺産群も加えた観光周遊ルートについて記載いただきたい。

南城市とうるま市では、観光振興及び地域活性化を目的に、観光客の回遊性向上を図る観光型 MaaS の実証実験をしている。東海岸地域でも取り組んでもらいたい。

ワーケーションについては、沖縄県は他府県と比べてワーケーション拠点として魅力的な県である。中でも、サンライズを望む東海岸は、生活リズムを整える健康面から高いポテンシャルがある。

東海岸地域の産業発展のコア部分として、中城湾港と背後地域との円滑な連絡を確保するた

め、臨港交通施設の整備が求められている。

産業の集積については、中城湾港新港地区の後背地に新たな産業集積を検討しており、構想内でも重要なポイントとして位置付ける必要がある。

南北の軸である沖縄自動車道から東海岸地域に接続する「(仮称)中部東道路」の整備や、うるま市の宮城地区から北中城村の渡久地交差点にかけてのエリアが主要幹線道路としての機能が十分に発揮されず、経済活動の阻害要因となっているため、国道 329 号沖縄バイパスの整備が必要である。

(南城市) 瑞慶覧委員

国、県、市町村及び関係団体が、新たな振興計画において同じ方向を向いて取り組むことは大変重要。

都市計画道路の計画延長において西海岸地域の総延長と東海岸地域では大きな差がある。また、東海岸地域の中でも明確な格差が生じており、既存道路も含め、新たに都市計画道路として指定して頂きたい。

東海岸地域の活性化・発展を目指すには、拠点形成のためのインフラ整備、とりわけ公共下水道の整備が非常に重要。沖縄振興公共投資交付金の要望額と配分額に大きな隔たりがあり、西海岸地域の水準に追いつくよう整備率の低い市町村には傾斜配分を重点的に行うなどの取り組みが不可欠である旨の方針を示して頂きたい。

産業用地確保のため、市町村の指定する区域内における農用地の一部除外と農地転用の許可を行うことができるよう規制緩和制度の創設して頂きたい。

(北中城村) 石渡氏 (新垣委員代理)

今後は、ロウワー・プラザ住宅地区の早期返還と、ライカム地区と同様に経済効果を発揮する跡地利用を行いたい。

沖縄県内で継続的に人材育成を行う必要があると考える。現在、沖縄で IT 人材の育成をしている施設は琉球大学、沖縄高専と民間の専門学校があり、教育部局も交え、検討をする必要がある。

進出を希望する企業があっても市街化調整区域という土地利用の制限があり、経済発展の足かせとなっている。そのため、中城村と共同で中部広域都市計画区域への編入をお願いしている。

持続可能な開発を考えた場合、誘致した企業へ技術系や IT 系の人財を送り続ける必要があり、教育面も含めて俯瞰的に検討し、総合的に進めることが求められる。沖縄が日本や世界の知的人財供給地となるくらいの大きな夢を新たな振興計画に掲げてもよいと思っている。

東海岸サンライズベルト構想から、将来は世界へ羽ばたくようなストーリーのある構想をつくる必要がある。

(中城村) 比嘉氏 (浜田委員代理)

中城村は市街化調整区域、農振区域の網掛けによって、住宅建築や企業誘致等が困難である。これまでの土地利用の範囲内における構想であるのか、もしくは土地利用を見直すとの認識で良いのか。

東海岸地域全体で地域活性化を図るためには、市町村単位でその地域のポテンシャルを最大限に引き出せるよう都市計画の緩和は必要不可欠である。

国道 329 号の西原バイパス道路が西原町小那覇から本村津覇集落まで計画されているが、本村としては村主要施設が集積するタウンセンター地区内まで道路の延伸が必要である。

(西原町) 崎原委員

東海岸サンライズベルト構想では、東海岸地域にもう一つ南北に延びる経済の背骨を形成することが大きな目標であることから、国道 329 号西原道路のさらなる北進が必要である。

MICE 施設への新たな公共交通として、浦西駅からマリンタウン地域へのモノレールの延伸が必要である。

非常に重要な事項であるウィズコロナ、アフターコロナの視点が盛り込まれており、これについては賛同させて頂きたい。特にワーケーションなどの新しい視点は東海岸地域に係る施策において重要な要素となる可能性がある。

沖縄県が推進しているマリンタウン MICE エリアの核となる大型 MICE 施設については、サンライズベルト構想においても非常に重要な位置づけであるため、早期整備が必要である。

西原町では大型 MICE 施設に関連した内容について、都市計画マスタープランの見直しを行っている。また、現在の工業用地を国道 329 号バイパスが分断してしまうため、マリンタウン後背地に、その移転先となる工業用地を検討している。

(与那原町) 照屋委員

東海岸地域活性化の起爆剤となる MICE 施設の成功には、那覇地区や周辺地域からの円滑な移動交通の確保が必要であり、スムーズな交通手段を導入しておくべきである。

東海岸サンライズベルトの発展及び北部地域へのベルト延伸に向けては、公共交通の充実が大切である。バスの県営化による県全体の公共交通の再編等、大胆な取組が必要である。糸満与那原のネットワークの充実に向け、県道糸満与那原線を補完する道路（仮称）の早期開通が必要である。

マリンタウン MICE と沖縄市アリーナを円滑な交通で結び、東海岸地域全体を使ったイベントを開催するなど相乗効果を図る必要がある。

与那原マリーナからは大型ヨットによる富裕層の来訪者、中城湾港には大型クルーズ船を活用した多くの来訪者が想定されることから、宿泊施設、おみやげ、飲食等、当該来訪者の受入環境の整備が必要である。

年中温暖な沖縄の気候を生かして、東海岸地域の魅力・史跡等をつなぐワンウェイマラソン大会や、東海岸地域におけるサイクルツーリズムの実施等による観光客の誘致を図る取組が必要である。

(沖縄市) 事務局代読

沖縄のポテンシャルを存分に発揮し、日本経済再生のけん引役となるためには、各市町村の強みを生かした施策の展開が重要だと認識しており、特に、西海岸にはない東海岸の資源の活用や新たな拠点における周辺環境の早期整備を推進する必要がある。

スーパーヨットの寄港については、1隻あたり数千万円規模の経済効果があると言われており、本市の東部海浜開発地区にスーパーヨットの寄港ができるよう整備を進める必要がある。

「沖縄アリーナ」や「沖縄こどもの国」、「東部海浜開発地区」など、拠点施設の形成に取り組んでおり、拠点を結ぶ交通ネットワークや周辺環境の整備が重要だと考えている。総合的な交通ネットワークの形成や広域的な道路網の整備を推進する必要がある。

各自治体の拠点・資源等のポテンシャルが活かされ、西海岸に匹敵する賑わいを創出できるような構想とする必要がある。

②県関係部局長

(企画部) 宮城委員

新たな振興計画に向けて、骨子案づくりを進めているところ。骨子案については、年明け後に市町村の皆様や各種団体の皆様からご意見を伺うことにしており、これらのご意見を踏まえて、素案を取りまとめることとしている。東海岸サンライズベルト構想の展開についても、素案に盛り込みたい。

中・長期的な観点から、鉄軌道とフィーダー交通が連携する公共交通ネットワーク構築がある。鉄軌道と各地を結ぶ利便性の高い公共交通ネットワークの構築を見据えて、市町村と共同で公共交通の充実に向けた取組みを進める。

(商工労働部) 嘉数委員

沖縄 IT 津梁パークについては、企業集積を加速させており、順調に拡大を続けている。更なる高付加価値化に向けて、新サービスの創出支援、高度人材育成に取り組むとともに、観光業や医療、農業等の他産業との連携にも取り組む。

国際物流拠点産業集積地域について、企業集積が着実に進み、さらなる産業用地の確保が必要となっている。

(文化観光スポーツ部) 渡久地委員

沖縄市で多目的イベントホールである沖縄アリーナが整備されており、令和3年6月に開業予定となっている。沖縄アリーナは琉球ゴールデンキングスのホームとなる他、令和5年のFIFAバスケットボールワールドカップ等、今後多くの国際大会の会場として期待されている。尚巴志マラソン等の東海岸地域のスポーツツーリズムの拡大が期待されているほか、サイクルツーリズムについても話があり、ハードとソフトの両方で期待が寄せられる。

沖縄県では令和元年度から富裕層を対象にプロモーション事業を実施しており、東海岸地域を含め、本事業の対象となる富裕層向けのコンテンツやサービスについて、適宜取り組んでいきたい。

今年度、琉球王国のグスク及び関連遺産群が世界遺産に加わって20周年となっており、SNSを活用したプロモーション事業やスタンプラリーを実施している。

(土木建築部) 上原委員

中城湾港については、長期構想の議論をしているところである。今後の中城湾港のあり方につ

いては、R3 に予定している港湾計画の改訂や、令和4年度の新たな振興計画によって、施策事業として位置付ける。

中城公園は、中城城跡を核とし、沖縄の歴史、文化、自然を積極的に体験、学習できる公園として整備を進めている。

市街化調整区域では、保全と開発の両立を図り、計画的に土地利用を展開していく必要がある。その対応の一つとして、地区計画ガイドラインを緩和し、市町村と研究会を立ち上げる等、地区計画の策定に向けて取り組みを進めている。

③学識経験者等

島袋副委員長

沖縄もSDGsを宣言しているのであれば、温室効果ガスの排出抑制についても考慮し、公共交通の政策や道路整備等をどのように行うのか考えて頂き、構想にそういった視点について記載頂きたい。

山城委員

人流・物流が回復すると那覇港だけでは限界を超えてしまう。中城湾港の整備を早期に取り組み、沖縄のもう一つの発展の核にする必要がある。

那覇港湾、中城湾港が単に機能していれば良いというわけではない。それぞれに負担を分けられるよう、那覇港と中城湾港が連携するための物流道路の整備も必要である。

永井委員

リゾテックは観光とITを掛け合わせた言葉だが、観光だけではなく、あらゆる産業に関係してくる。ITや実証実験やスタートアップという言葉が記載されているが、リゾテックという言葉を使用してほしい。

東海岸地域はうるま市から南城市にかけて、様々な要素やキーワードを持っており、東海岸サンライズならではキーワードが無いと、西海岸との違いを示せないと感じた。

東海岸ならではの要素として朝日があり、そこから派生してスタートや起動というイメージ、例えば沖縄県でリブートや再起動したい会社であるとか、日ごろの自分に打ち勝つ人たちに共通する言葉があると、西海岸と差別化等ができるのではないかと。

前原委員

ワーケーションについて、快適な滞在とアクティビティ、リラックスして仕事ができる環境が必要となるが、現状としては不十分であるため、それらの整備が必要になる。

大型MICEがオープンし大規模な催しが開催された場合、ハシゴ道路のネットワーク構築やバイパス道路の整備、モノレール延伸等で対応できるかが懸念される。

基幹道路の整備に加え、地域コミュニティバスやモノレール等の総合的な公共交通ネットワークを構築する必要がある。

歴史資源、自然資源と観光振興の調和とあるが、これがまさに東海岸の強みである。沖縄彩発見バスツアーという事業を行っており、今後、観光客も利用されていけば、レンタカーによる交

通渋滞の緩和にもつながる。

池田委員長

東海岸地域においては交通の整備が重要と考える。観光や物流等も含め、那覇空港や港湾とどう繋げていくかが重要。

東海岸地域は自然が非常に豊かであり、北部地域も自然の宝庫。自然は地域の個性なので、これを生かすことも必要。

5 意見交換

東海岸サンライズベルト構想のコンセプトや方向性等について、意見交換を行った。

(与那原町) 照屋勉委員

東海岸地域は公共交通が脆弱であるため、基幹道路の整備と、バスも含めた公共交通とシェアリングモビリティの有機的な連携を検討する必要がある。

MICE 施設については、脱炭素社会を含め、ゼロエネルギーを目指して再生可能エネルギーを活用したエネルギー供給体制を想定している。周辺環境整備については、自然を楽しみながら、快適かつコンパクトで住みやすい空間の実現が重要である。また、エリア内はキャッシュレスはもちろんのこと、ビッグデータを活用したオペレーションシステムの導入といった、国内外からも訪れたい都市を形成する必要がある。

大型ショッピング施設が乱立し、住宅が密集するようなエリアではなく、働く、住む、遊ぶの3つを満たす快適な生活空間の形成を目指す。

IT等の最先端技術の集積地域を形成し、自動運転の実証実験等を行える空間や、国内外からクリエイティブな人材を東海岸に呼び込めるようにしたい。

快適な住環境の実現として、ヨーロッパのように、街中を公共交通が走り、人々が歩くウォークアブルシティの実現による、脱炭素社会の形成する。

広大な土地を確保してのスポーツツーリズムについて、健康や、歴史文化といった、様々なテーマでイベントを行えればと思う。

(中城村) 比嘉氏 (浜田委員代理)

東海岸地域は朝日が美しく、観光、農業、自然等、様々な楽しみのある地域である。観光面では、中城村には国内外から観光客が訪れる中城ゴルフ場がある。その辺りを含め、今後検討をお願いしたい。

自転車での地域内観光も考えられるが、交通網が整備されないと、有効な活用が難しいと思われる。中城湾港へのアクセスも含めて、国道329号の拡幅を推進する必要がある。

富川副知事

コロナ禍にある中で、アフターコロナを想定した安全安心なスマートシティの考え方を各市町村が持つてはどうかと考える。また、OISTについては、西側にある施設だが、研究成果の具現化を、東海岸側に展開できないだろうか。

池田委員長

意見のまとめについては、次回の委員会で行いたい。

まず、東の方を一つの軸を含めて連携していくサンライズベルトの構想自体は、各委員、市町村から賛成、重要であると、この意義は皆さん大きく感じていただいている。

ただ、市町村含めて抱えている課題がある。地域の交通であれ、産業であれ、色んな施設であるとか、環境問題も含めて、いろんな角度から考えていかないといけない。

リゾテックの概念も含めて。そういった中で、スマートシティも含めて色んな大学等の施設の活用や、色んな考え方があると思うので、是非中身が濃く、なおかつ連携をしていくというのが重要になる。

6 閉 会